

サハリン・樺太史研究会

第56回例会

日時：2019年11月2日（土） 14:00～17:30

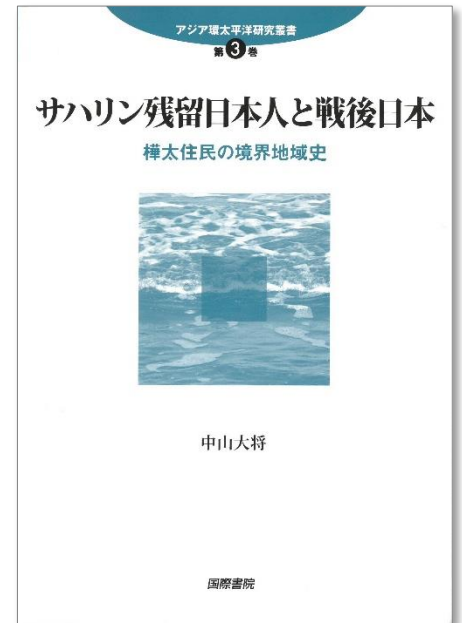
場所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟 2階 W202 室

書評 中山 大将

『サハリン残留日本人と戦後日本

樺太住民の境界地域史』

(国際書院、2019年 3,500円+税)



評者 浅野 慎一（神戸大学）

外村 大（東京大学）

はじめに

第1章 サハリン残留日本人研究の意義と方法

第2章 近現代東アジアにおける残留

第3章 戦後サハリンをめぐる人口移動と市民運動

第4章 サハリン残留日本人の発生

第5章 冷戦期帰国

第6章 25年の停滞と自己意思残留論の登場

第7章 冷戦期を生きる残留日本人

第8章 ポスト冷戦期帰国

終章



主催 サハリン・樺太史研究会

共催 北海道大学大学院文学研究院北方研究教育センター

新学術領域研究(研究領域提案型)「市民による歴史問題の和解をめぐる活動とその可能性についての研究」

〈お問い合わせ先〉 サハリン・樺太史研究会 事務担当鈴木 su-jin@eis.hokudai.ac.jp

事前申込不要